



「SAT通信」 NO1

教職支援センター「より良いSAT活動研究会」

令和6年6月12日発行

学生のみなさん、こんにちは。

令和6年度のSAT活動が始まり、1か月が過ぎました。教育実習以外で学校現場を体験することは、他大学には見られない大変貴重な体験です。このような体験ができるのは、都留市・西桂町両教育委員会をはじめ、SAT学生を受け入れてくれる小中学校のご厚意があつてのことです。是非、みなさんには「感謝」の気持ちと「謙虚」な心をもってSAT活動に邁進してほしいと願います。

さて、みなさんは「SAT活動がどのようにして生まれたか」ご存じですか。

ここで、SAT活動の歴史を紐解いてみたいと思います。



< SAT活動の歴史 >

SAT活動は、文科省委託研究の「放課後学習チューター事業」がその前身で、学生が小中学校にチューターとして出向き、学習上の指導助言をすることで、児童生徒の学習上のつまづきを解消したり、学習意欲の向上を図ったりするという目的で始まりました。その後、本学が主体となって「放課後学習チューター事業」を「SAT (Student Assistant Teacher) 事業」として実施することになります。SAT事業は、はじめは都留市内小中学校5校で開始され、教職課程に在籍する学生の希望者が参加しました。そして、現在では、教員免許状取得のための必修・選択科目として、都留市内小中学校・西桂小学校11校で実施され、SAT-A (放課後学習支援)、SAT-B (授業中学習支援)、SAT-C (特別支援)の3タイプで活動しています。

したがって、SAT活動の真の目的は、「子どもの学習支援や学習意欲の向上のためのもの」といえます。これがSAT活動の原点であり、真の目的に他なりません。

学生のみなさんには、SAT活動の目的を十分理解した上で、「勉強で困っている子どもに、どんな指導をしたらよいか。どんな声かけをしたらやる気になるのか」などを自分の目標として設定し、現場の先生方の指導を得ながらチャレンジしてほしいと思います。

「より良いSAT活動研究会」は、みなさんの応援者として頑張っていきます。

< こんな時どうしますか >

授業中、勉強で困っている子どもを見つけるにはどうしたらよいと思いますか。

< アドバイス >

立つ位置を考えてみてください。困っているかどうかは、子どもの表情を見ないと分かりません。後ろに立っていても表情はわかりません。子ども全員の表情が見える位置に立つことが必要です。例えば、正面は無理でも、斜め前なら立てるでしょう。一般的に、授業は子どもの表情や様子を把握しながら進めていくものです。教師が独りよがりで行進るものではありません。子どもと一緒に進んでいく授業を心がけたいものです。

